

よりよい生活の実現や持続可能な社会の構築に向けて 自立した消費者として責任ある消費行動のとれる生徒の育成 - 問題を見極め課題を設定し解決する学習活動を通して -

東京都中学校技術・家庭科研究会
世田谷区桜丘中学校 教諭 鬼頭 志歩

1 主題設定の理由

現代社会は、現金に代えて電子マネーやクレジットカード等が浸透し、キャッシュレス化が進行している。政府は、2025年の大阪万博までにキャッシュレス決済比率を40%に、将来的には80%まで大幅に引き上げる目標を掲げている。また、2022年の民法改正により、成年年齢が引き下げられ、自分の意志で契約できる年齢が引き下がることから、消費者被害の低年齢化が懸念される。持続可能な社会の構築は急務で、その目標達成のためのSDGsは、今や様々な国・地域で提唱されている。

そのような現状を背景に、今回の新学習指導要領の改訂では、『計画的な金銭管理、消費者被害の回避と適切な対応』の内容が加わった。さらに、持続可能な社会の構築に向けて、消費生活と環境を一層関連させて学習できるようにし、自覚をもって環境に配慮したライフスタイル確立の基礎を培うことが盛り込まれている。

次代を担う生徒たちが、めまぐるしく変化する社会に対応し、持続可能な社会の創り手として、自分自身で考え自立した消費者となるために、技術・家庭科の果たす役割はますます大きくなっている。

そこで、本研究では、課題をもって持続可能な社会の構築に向けて考え、工夫する活動を通して、自立した消費者として責任ある消費行動のとれる生徒の育成を目指し、研究主題を設定した。

2 生徒の実態

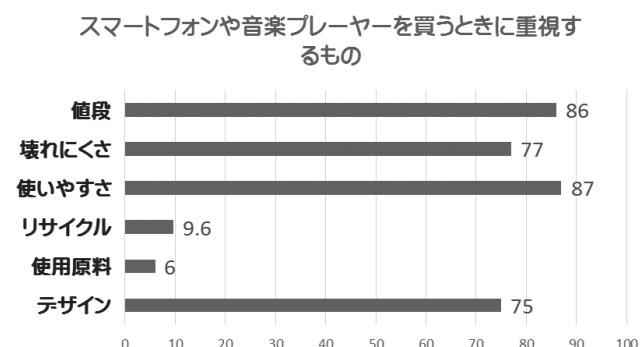
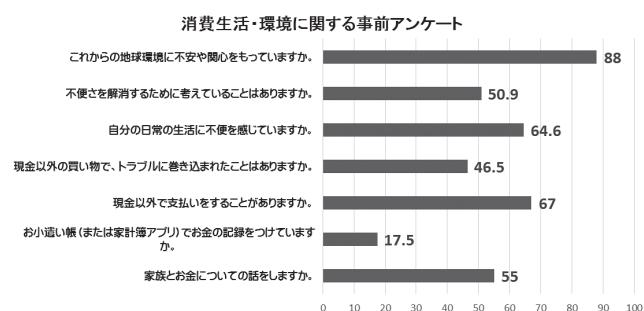
2020年7月に世田谷区、町田市1,127人の生徒を対象に、「持続可能な社会の構築」という見方・考え方の視点に関する実態調査を実施した。

その結果「普段から家族とお金についての話をする」は55%、「お小遣い帳（または家計簿アプリ）

でお金の記録を付けている」は17.5%となった。家族とお金についての話はするものの、自分の使ったお金を記録している生徒は少ない実態が分かった。

また、35.4%の生徒が自分の日常生活に不便を感じていないと答えており、その中でも不便さを解決するために考えていることがないと答えた生徒が50.9%もいること、「現金以外の買い物で、トラブルに巻き込まれたことはある」と答えた生徒は46.5%いることもわかった。

さらに、これからの地球環境について不安に思っていることや関心をもっていることがあると答えた生徒は88.0%いたが、実際に「あなたがスマートフォンや音楽プレーヤーを買う時に重視するもの」では「リサイクル」は9.6%、「使用原料」では6%と、実際の場面では環境に配慮した消費行動ができていない生徒が多い実態が明らかになった。



以上の結果から、生徒は金銭についての意識はあるものの、金銭の管理における適切な対応をできるまでには至っていないことや、約半数の生徒が実際にキャッシュレス化に伴う金銭トラブルに巻き込まれた経験があることがわかった。さらに、環境問題についての関心はあるものの、実際に消費生活の場面において環境や資源を考えた商品の選択購入にまで及んでいない生徒の実態も見えてきた。自分で自分の生活を工夫することが大切であると分かっているにもかかわらず、それについての技能や知識は乏しい現状が見えてきた。

3 目指す生徒像

■よりよい生活や持続可能な社会を実現するために何が問題なのか、自分や家族の消費生活・環境に目を向け、「持続可能な社会の構築」という視点から社会や生活を見渡し、問題を見極めることのできる生徒

■自立した消費者としての消費行動について、問題を解決するための課題を設定し、解決策を構想し、解決することができる生徒

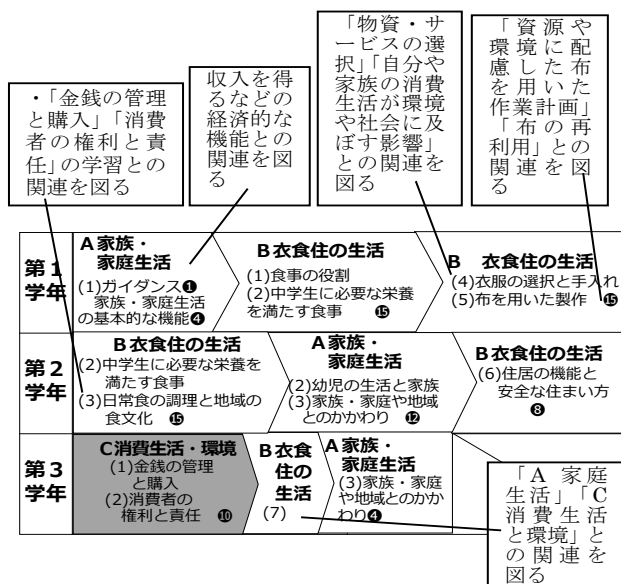
4 研究仮説

生活に即した消費生活・環境に関する題材をPDC Aサイクルによる学習過程を展開し、繰り返すことで、基礎的・基本的な知識や技能、生活を工夫し創造しようとする実践的な態度を身に付け、自立した消費者として持続可能な社会を目指し、責任ある消費行動のとれる生徒が育つであろう。

研究内容

(1) 指導計画の工夫

① 3年間を見通した指導計画



私たち消費者が生活する上で欠くことができない消費活動において、必要な物資やサービスを適切に「購入する」ことや、自分のことだけでなく家族や家庭全体の収入や支出について考慮しながら「購入する」ことは、中学生にとって実感が湧きづらく、自分のこととして考えることが難しい状況がある。

そこで「A 家族・家庭生活」では、家族・家庭の基本的な機能の一つとして収入を得るなどの経済的な機能について、「B 衣食住の生活」では、環境の学習と関連させながら、食品や衣服等の選択や調理・製作についての学習を行う。第1, 2学年で、これらの学習を消費生活・環境の学習内容と関連づけて履修することで、それまでに身に付けた知識・技能を「C 消費生活・環境」の学習の中でさらに深めることができると考えた。

また、家計は社会全体の経済の動きと連動するため、社会科（公民的分野）と関連を図る必要がある。

それを踏まえ、第3学年で履修し、望ましい消費者としての意識をもたせて、地域や社会が学習範囲となる高等学校の学習へつなげていく。

② ストーリー性をもった題材の設定

本題材では、題材を通した学習課題を「自立した消費者になるためにはどのような行動をすればよいのだろうか。」として、「持続可能な社会の構築」という視点から10時間の学習を通し課題解決ができるように構想した。第1～6時では、金銭の管理と購入について、物資・サービスの選択に必要な情報を活用し購入について工夫することを通して、課題の解決を図るようにした。ここでは、模擬家族の計画的な金銭管理の必要性に着目させ、身近な商品の購入の仕方を仮想することから、売買契約の仕組みや消費者被害の背景について理解できるようにした。第7～10時では、消費者と責任について、自立した消費者として責任のある消費行動を工夫することを通して、課題の解決を図るようにした。第7時以降も、これまでの模擬家族の商品の購入を踏まえながら、消費生活が環境に及ぼす影響などを理解できるように関連をもって題材を構成した。

③ 問題解決的な学習過程

生徒一人一人が、自立した消費者として責任ある消費行動のとれるようにするためには、消費生活に関わる問題に向き合い、物資・サービスの購入についての課題や身近な消費生活についての課題を設定

することが大切であると考えた。また、学習した知識及び技能を活用して課題を解決する学習過程を通して、自分の消費生活を見つめ直し、改善する学習活動を設定して自立した消費者としての意識を高めるように配慮した。更に、解決する過程において他者と対話する活動を通して、様々な気付きや葛藤を繰り返すことで、生活の中での課題を解決しようとする態度につながると考えた。

10時間の指導計画		
時間	題材名	学習内容
1	消費者としての自覚	自分の消費生活の課題設定
2	いろいろな購入方法	購入方法と支払方法について
3	多様化する支払方法	売買契約のしくみ
4	計画的な金銭管理	模擬家族における計画的な金銭管理
5	商品購入の情報収集	物資・サービスの選択に必要な情報の収集・整理
6	消費者被害の対策	消費者被害を回避する方法や適切な対応
7	消費者権利と責任	消費者の基本的な権利と責任
8	消費行動が環境に及ぼす影響	消費生活を振り返り、どのような消費行動が実践できるか
9	自立した消費行動	自立した消費者の行動を考える
10	自立した消費生活	よりよい消費生活の実現に向けて

<課題の発見、解決方法の検討と計画>

物資に恵まれた生活の写真や消費生活の仕組の全体図、生徒の実態調査から、自分の身の回りの消費生活の実態を把握させ、自立した消費者とはどのようなものか考えられるようにした。

そこから、自立した消費者を目指して、これからの学習でどのようなことを知り、また何ができるようになればよいか、学習の見通しをもたせるとともに、一人一人の課題を設定した。

<課題解決に向けた実践活動>

計画的な金銭管理や消費者の権利と責任などについて、中学生にとって身近な題材を工夫し解決に向けた実践活動を設定した。また、模擬家族を設定した学習活動を工夫し、家族会議を仮想してそれぞれの家族の役割や立場からの意見を取り上げ、購入の方法について検討する場面も設定した。加えて、家族の背景を踏まえた収支バランスについて理解できるようにした。

<実践活動についての評価・改善>

模擬家族の物資やサービスの購入計画について、評価するとともに、地球規模の課題への影響の視点から改善策を構想できるようにした。また、これまでの学習から自分の消費生活を改めて振り返らせる場面を設定した。そして、自分の消費行動が、地球のどのような問題につながっているのか、これから自分がどのような消費行動を実践できるかSDGs

の視点も取り入れプレゼンシートにまとめるようにした。

更に、自立した消費者となるための消費行動について、第1時で設定した各自の課題が解決できたか振り返り、自分の消費生活の在り方やライフスタイルの改善に向けた決意をプレゼンシートに追記するようにした。

(2) 見方・考え方を働かせ、質の高い深い学びを実現するための指導の工夫

① 問題を見極めるための工夫

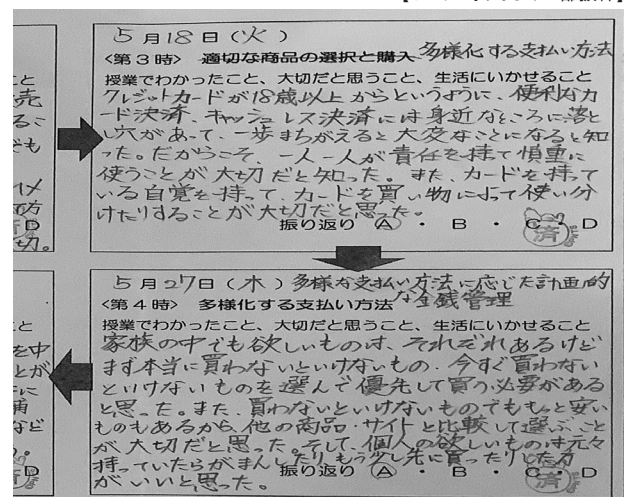
生活や社会の中から問題を見極め課題を設定するための導入として、物資に恵まれた生活の写真や消費生活の仕組の全体図、生徒の実態調査から、自分の身の回りの消費生活の実態を把握させ、自分の消費生活を振り返らせて関連付けて考えることで、課題が設定できるようにした。

② 課題を設定し、解決するための学習活動の工夫

ア 学びを自覚できる振り返りの工夫

自立した消費者としての自分の学びが視覚的に見取れるように、ポートフォリオを活用した。ポートフォリオには、毎時間の学びの振り返りを記入させ、更に第1時と第10時に、「自立した消費者とはどのようなものだと思いますか。」と発問し、学習前と学習後で自分の考えがどのように変容したのかが分かるように工夫した。

【ポートフォリオより一部抜粋】



イ ゲストティーチャーの活用

外部講師による授業は、生徒の関心や意欲を喚起して学習の内容を印象付け、専門的な知識・技能に触れることができる効果的な指導であると考えた。

そこで、専門的な知識をもつ金融関係者を講師として招聘した。授業の実施にあたっては、指導計画

や指導案を示しながら、前時までの経過、当日の流れ、その後の展開を十分に検討し、外部講師の授業での役割や、子どもに伝えたいメッセージは何かを共有・確認した。

ウ ICTの活用

資料の提示や情報収集、グループやクラスでの意見共有に、タブレットやアプリを活用した授業を行った。ICTツールによって画像や動画を活用した対話的な授業を行うことができ、生徒の興味・関心を高め学習に対するモチベーションが高まった。

また、教員からの一方通行の授業ではなく、タブレットを使って双方向のデータ共有による主体的・対話的で深い学びを進めることができ、生徒の学習に対するモチベーションを高めることができた。



タブレット PC を使って意見をまとめている生徒の様子

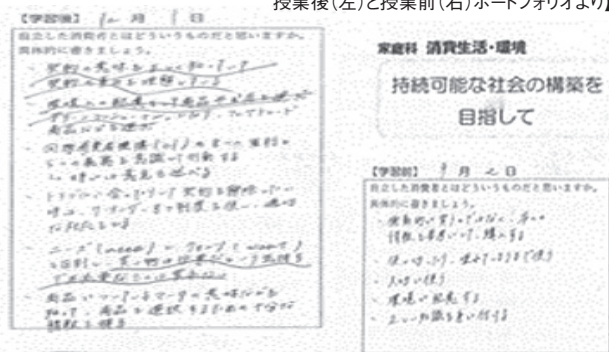
6 研究の成果

(1) 指導計画の工夫

本題材では、自立した消費者となるための消費行動について、第1時で各自の課題を設定させ、中学生を含む模擬家族の消費生活や、自分に身近な話題を通して課題解決的な学習を繰り返した。それにより、消費生活の問題に気付き解決すべき課題に主体的に取り組み、消費生活を工夫しようとする生徒の姿がみられた。

また、第9時と第10時の評価・改善における実生活での実践を計画する学習活動では、自立した消費者になるためには具体的にどのように行動すればよいのか、SDGsの視点も取り入れ考えを深めることができた。

【自立した消費者とは?という問いに対して授業後(左)と授業前(右)ポートフォリオより】



ゴール であらう。

(2) 見方・考え方を働かせ、質の高い学びを実現するための指導の工夫

中学生にとって身近な生活場面を取り上げ展開したことが、生徒の興味・関心を高め、主体的に生活を改善しようとする意欲につながった。また、専門的な知識があるゲストティーチャーを講師に招き授業を行ったことで、三者間契約や二者間契約の違いなどについてより具体的な事例をもとに契約の重要性について理解を深めることができた。

振り返りにおいては、ポートフォリオを使用し、自立した消費者を目指してどのようなことが大切なのか、生活に生かせることは何かを自分の言葉でまとめさせることにより、よりよい消費生活の実現に向けて、生活を工夫し創造しようとする態度を育むことができた。

生徒の身近な生活との関わりを重視し、自己の生活の質の向上とともに、家庭における実践に結び付けることができるようにしていくために、課題解決に向けて自分の考えを構想し表現する学習活動を設定することを通して「主体的な学び」「対話的な学び」「深い学び」を実現するための資質・能力の育成につながった。

7 今後の課題

(1) 地域社会、企業などとの連携

学習した内容を実際の生活で活かす場面を設定することにより、自分の生活が家庭と深く関わっていることは認識できた。今後は、地域社会や企業との関わりについても気付くことができ、自分が社会に参画し、貢献できる存在であることにも気付かせていきたい。加えて、カリキュラムマネジメントを推進し、教科横断的な指導計画の工夫も行っていく。

(2) 実践的・体験的な活動の充実に向けて、さらなるICT機器の活用

消費者被害や、自分や家族の消費生活が環境や社会に及ぼす影響などについて科学的な理解を深めるために、消費者被害の背景に関するデータを調査してまとめたり、生活排水や消費電力等に関する実験など実践的・体験的な活動を充実させていくことが課題である。そのため、情報の収集や活用、データの処理、発表など様々な場面においてICT機器を授業で活用できるよう環境を整えていく必要がある。